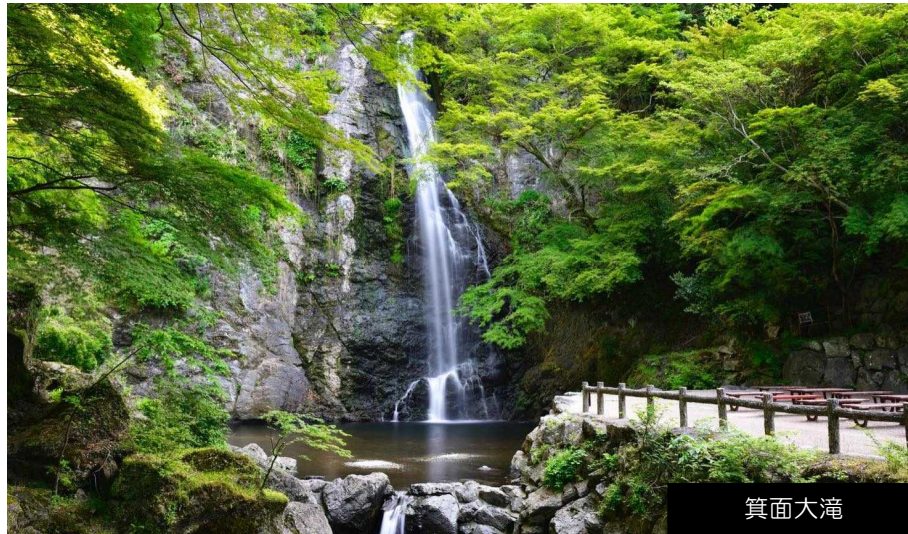


# 令和5年度 幼保小の架け橋プログラム 中間成果報告会資料



箕面市PRキャラクター  
滝ノ道ゆずる

箕面市教育委員会 子ども未来創造局 保育・幼児教育センター



# 1 箕面市の教育について

- ◆ 箕面市では平成17年度に、これまで市長部局と教育委員会に分かれていた子ども施策を「子ども」をキーワードに関係部門を教育委員会に一元化し、おおむね0歳から18歳までの子どもに対する施策（子育て支援含む）を総合的に展開している。
- ◆ 「幼稚園」「保育所」「認定こども園」「子育てセンター」等における就学前の子どもの育ちや家庭支援と、青少年の多様な活動を支援するため、家庭、地域、園所、小中学校との連携による施策や早期療育についての推進体制を充実させている。
- ◆ 架け橋プログラムに関しては、令和4年度から学識経験者、モデル地域を含む市内就学前施設代表者、小学校校長、保護者を構成メンバーとする「架け橋期カリキュラム開発検討会議（以下、検討会議という。）」を設置。令和5年度からは就学後担当として、学校教育室が構成メンバーに加わっている。

## モデル地域について

小学校と幼稚園を同敷地内に設置しており、令和6年度にはかやの幼稚園を近隣の萱野保育所とともに公立初の認定こども園として設置する、萱野小学校区を本市の架け橋プログラムモデル地域とした。

箕面市



箕面市役所

モデル地域(拡大)



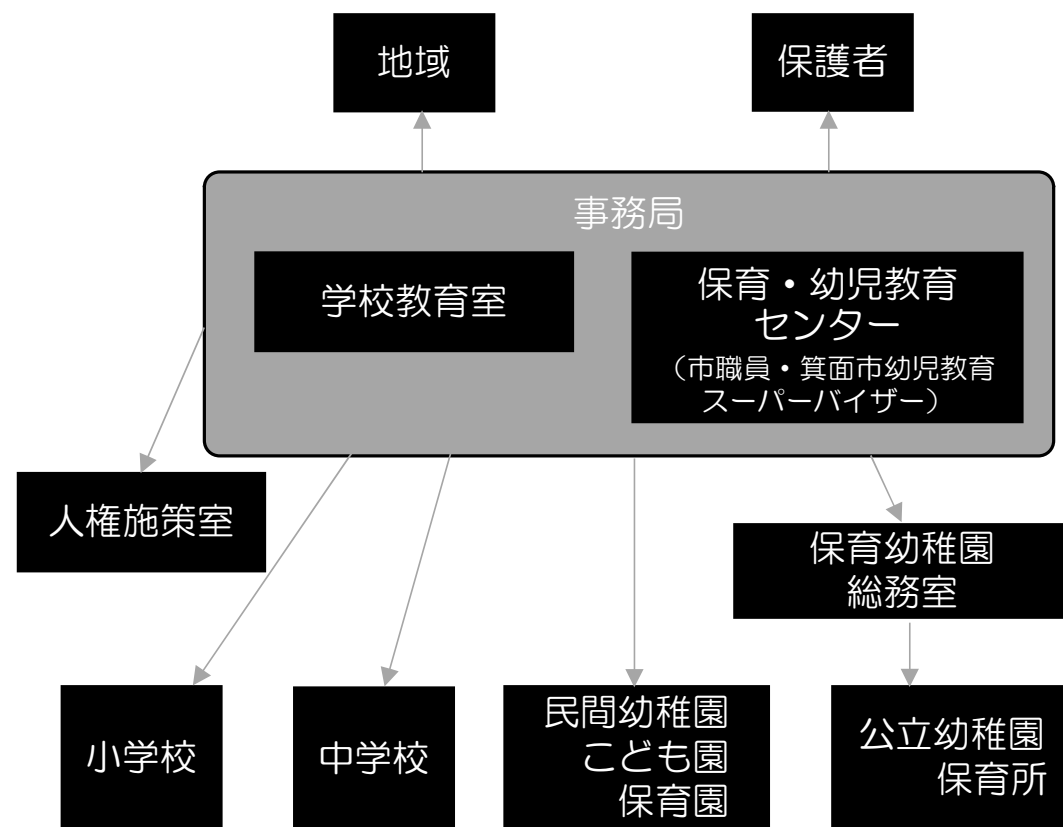
# (参考) 架け橋期カリキュラム開発検討会議

## ■体制

役割	所属等
会長	子ども未来創造局 担当部長 (箕面市教育委員会)
委員	箕面市立萱野小学校 校長 (※)
委員	箕面市立萱野保育所 所長 (※)
委員	箕面市立かやの幼稚園 園長 (※)
委員	箕面市立なか幼稚園 園長 (※)
委員	箕面保育園 園長 (※)
委員	こども園 アサンプション国際幼稚園 園長 (※)
委員	架け橋期代表保護者 3名
コーディネーター	大阪総合保育大学 児童保育学部 教授 (包括連携協定締結大学)

(※) の所属から、ワーキンググループに所属の職員を派遣して  
いただいている。

## ■事務局



## 2 架け橋期のカリキュラムについて



- ◆ 本市のめざす子どもの姿「箕面っ子」を育むため、国の「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き・参考資料」を活用し、共通の視点をもとに架け橋期カリキュラムを作成する。
- ◆ 作成に当たっては、検討会議のほか、モデル校を含む計6施設の職員で構成する「架け橋期カリキュラム開発検討会議ワーキンググループ」において具体的な検討をすすめる。実際の子どもの姿や教師・保育者の工夫等について、互いの教育活動を見学し、情報共有や意見交換を行い、カリキュラムの作成につなげている。

- 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てとして普及
- 架け橋期において、園や学校が行っている環境づくりや子どもへの関わりに関する工夫を家庭にも知らせるものとする

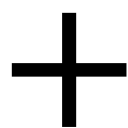
## 箕面市の接続のイメージ

### 箕面っ子の「豊かな育ち」と「確かな学び」を接続する

#### 「連携」

交流活動を中心に実施

- ・ 一年生を迎える会
- ・ 学校見学
- ・ 就学前引き継ぎなど



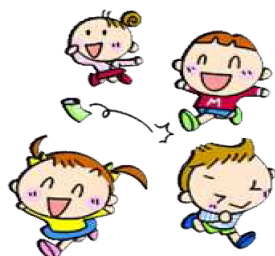
#### 「接続」

教育課程をつなげていく

- ・ 幼児教育から学校教育への連続性・一貫性を保障する

幼児教育

遊びの中にある学びの芽生え



小学校教育

自覚的な学び



接続

★ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

# 箕面市のめざす子ども像

自分に自信と誇りを持ち、箕面を愛し、

夢や希望を持ってともに社会を生きる箕面っ子の育成

つながり  
高めあう  
箕面っ子

- ・ 自他のよさや違いを認め、互いの大切さを尊重し合い  
思いやる心をもった子ども
- ・ 自分を見つめ、自らの可能性を信じ、夢や目標に向かって  
努力する子ども

健康でたくましく  
生きる  
箕面っ子


- ・ 進んで運動に親しみ、体づくりに励む子ども
- ・ 望ましい食習慣等、健康で安全な生活を考え、実行  
できる子ども

進んで考え  
学びあう  
箕面っ子

- ・ 自ら考え主体的に判断し、問題の解決に取り組む子ども
- ・ 互いの考えを共有し、深め合う子ども




# 保育・幼児教育で育みたい子ども

子どもたち一人ひとりが愛情に包まれ、ゆったりとした生活の中で、生命を大切にして自分らしく生きる力を育み、自らと他の人との幸せを作り出すことのできる人に育っていくことを願います。




**み**んなとともに  
育つ子ども

一人ひとりが大切にされる中でまわりの人との信頼感を育み、人に対する優しさや一人ひとりの個性を互いに認めあう気持ちを育てていきます。



**の**びやかで  
ゆたかな心をもつ子ども

自然や社会との関わりや、いろいろな体験をとおして、美しさや不思議さ、おもしろさなどに心を動かす感性をそなえ、楽しさや喜びなどの様々な感情を味わい、自分なりに表現する喜びを感じられる子どもを育てていきます。



**お**もい、考え、  
行動する子ども

心を動かし、好奇心や探究心をもって環境に関わり、主体的に「考える」「試す」「表現する」を繰り返しながら、自ら判断し、解決していく子どもを育てていきます。



# カリキュラムの作成プロセス

## 1年目（令和4年度） 土台づくり

1年目は「架け橋期における接続の意義」に関する学習会（学識経験者による研修）や、施設見学等を通じて、関係者間の顔合わせ、各施設における取り組みや子どもたちの実態共有、意見交換などの土台づくりを中心に実施。

## 2年目（令和5年度） カリキュラム（素案）の作成

- ・ 1年目の取り組みを継続しながら、幼児期に育まれる資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が小学校の教科等にどのように接続していくのか、検討会議で意見聴取。
- ・ 検討会議での意見を踏まえ「架け橋期カリキュラム（素案）」を作成し、本市のモデル地域である萱野地域（萱野保育所、かやの幼稚園、萱野小学校）で実践・評価。

## 3年目（令和6年度） カリキュラムの完成

- ・ 1・2年目の取り組みを継続しながら、モデル地域での実践を引き続き行い、評価を反映させた「架け橋期カリキュラム」を完成させる。
- ・ 完成した「架け橋期カリキュラム」を各就学前保育・教育施設及び小学校へ周知するとともに、市内他地域への持続可能な展開をめざす。

### 3 教師の指導・援助と子どもの学びの変化

架け橋期の教育については、これまでからそれぞれの教育施設において、さまざまな工夫が行われてきた。取り組みを通して互いを知ること、教師・保育者の意識が変化し、これまで行ってきた工夫の意味をあらためて再認識したり、新たな工夫を加えたり、つながりをより意識するきっかけになっている。こうした意識の変化が、指導・援助、子どもの学びの変化につながるものと思われる。

#### 【教師の意識の変化（小学校）】

- ◆ 幼児期の過ごし方や幼児教育での工夫や言葉かけなどを知り、入学後（小学校）の子どもたちがどのようにすごしてきたかが分かった  
⇒取り入れられることはないか、どうすればわかりやすいかを意識
- ◆ 小学校教育はゼロからのスタートではない  
⇒幼児期に過ごしてきた遊びなどの経験に学びを積み重ねていく
- ◆ 急がずに、段階的に学校のルールを知らせていく
- ◆ 架け橋を意識してこれまでの活動のすべてを変えるのではなく、日常生活や授業の中で幼児期の育ちをふまえた工夫を取り入れていく



## 【架け橋期における工夫（小学校）】

- ◆ 入学当初の配慮や授業の進め方の工夫  
⇒モジュール学習・絵本・手遊び・ゲームなど幼児教育での工夫を取り入れる
- ◆ 注意するのではなく、よい姿をほめる
- ◆ 聞かれた質問には必ず答える
- ◆ 子どもから出た発想を大事にする、否定しない  
⇒ 安心感  
⇒ 「聞くことができる」雰囲気作り
- ◆ 幼児期に体験してきたことをふまえて授業を組み立てる  
幼児期の体験を授業の中に取り入れる  
⇒安心感、自信をもって取り組める



## 【保育者の意識の変化（幼稚園・保育所）】



- ◆ 幼児教育と小学校教育の違いや、小学校での過ごし方や授業を知った  
⇒修了した子どもがどのように過ごすかを知り、つながりを意識
- ◆ 幼児期の遊びにはたくさんの学びがつまっている  
教科の学習に繋がっている  
⇒子どもが好奇心・探求心をもって、主体的に遊びに関わるような環境の工夫が必要
- ◆ 誕生からの育ち（乳幼児期からの学び）が生涯の学びに繋がることをあらためて知った  
⇒愛着形成、自己肯定感、質の高い保育の保障の重要性を再認識
- ◆ 幼児期だからこそできる遊びや豊かな経験・体験こそ学びにつながる



## 【架け橋期における工夫（幼稚園・保育所）】

- ◆ 幼児期の生活を基盤にしなが、小学校の生活へつながることを部分的に取り入れる  
⇒時間を意識した活動、個の活動と集団活動のバランスを意識するなど
- ◆ 遊びの中で何が育っているかを意識して関わる  
⇒自ら気付く言葉かけ、もっとやりたいと思える環境構成の工夫など
- ◆ 架け橋期にかかわらず乳幼児期において、一人ひとりの子どもの主体性を尊重し、他者への信頼感や自己肯定感を育むことを大切にする
- ◆ 幼児期の遊びが学びにつながることを保護者へ発信する





## 4 次年度以降の展望

- ◆ モデル地域において作成した「架け橋期カリキュラム（素案）」のモデル地域以外への周知をすすめながら、持続可能な展開方法について検討。
- ◆ より多くの関係者が利用できるカリキュラムとなるよう実践事例を作成し、箕面市における「架け橋期カリキュラム」を作成する。
- ◆ 架け橋期カリキュラムの開発・実践・評価に係る取組内容を研究成果として、市ホームページに掲載する。